

麦類

赤かび病

発生の動向

- 1 平成 28 年以降、発生圃場率が平年より高い（図 1）。
- 2 令和 3 年は、6 月中旬の巡回調査では発生圃場率が 22.9%（平年 12.0%）であり、平年より高かった（図 1、表 1）。
- 3 地域別では、県中南部で発生圃場率が高かった（表 1）。
- 4 近年、赤かび病抵抗性「やや弱」の品種（ゆきちから）が広く作付けされている。

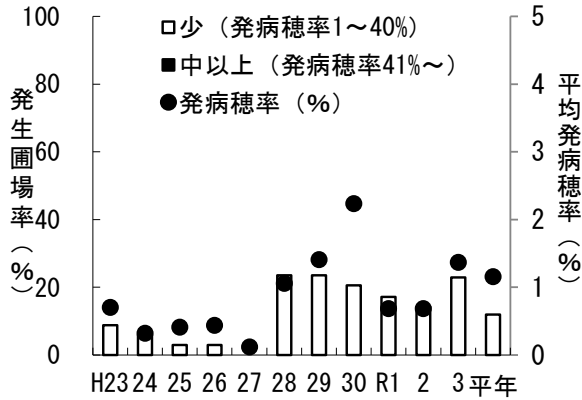


図 1 赤かび病の発生圃場率の年次推移

表 1 令和 3 年の地域別赤かび病発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	発生圃場率 (%)	平均発病穂率 (%)※
県北	6	0	0.0	-
県中	24	6	25.0	6.7
県南	5	2	40.0	4.0
全県	35	8	22.9	

※発生圃場における平均発病穂率（25穂当たり）

防除対策

- 1 赤かび病菌は、開花した穂に感染するため、開花期の防除が最も効果的である。ナンブコムギ、銀河のちからは、開花期の 1 回防除で効果が得られる。ゆきちからは、開花期と開花 7～10 日後の 2 回防除が必要である（表 2）。
- 2 開花盛期の感染は開花前に比べて被害が特に大きく、この時期に 25℃付近で曇雨天が続くと感染が助長されるため、追加防除を実施する（表 2）。
- 3 成熟する前で穂が緑色の時期は罹病穂を識別しやすいので、この時期に抜き穂を行う。
- 4 刈り取りが遅れると発生が多くなるため、適期に刈り取る。
- 5 多発圃場では刈分けとし、健全粒と別扱いにするとともに、比重選別と粒厚選別を併用し、被害粒を除去する。

表 2 小麦主要品種の防除適期

品種名	赤かび病抵抗性	防除適期		
		開花期 (1 回目散布)	1 回目散布の 7～10 日後 (2 回目散布)	2 回目散布の 7～10 日後
ナンブコムギ 銀河のちから	中	必須	状況に応じて追加散布	—
ゆきちから	やや弱	必須	必須	状況に応じて追加散布